

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	10人
② 算数	10人
③ 理科	10人

5 留意事項

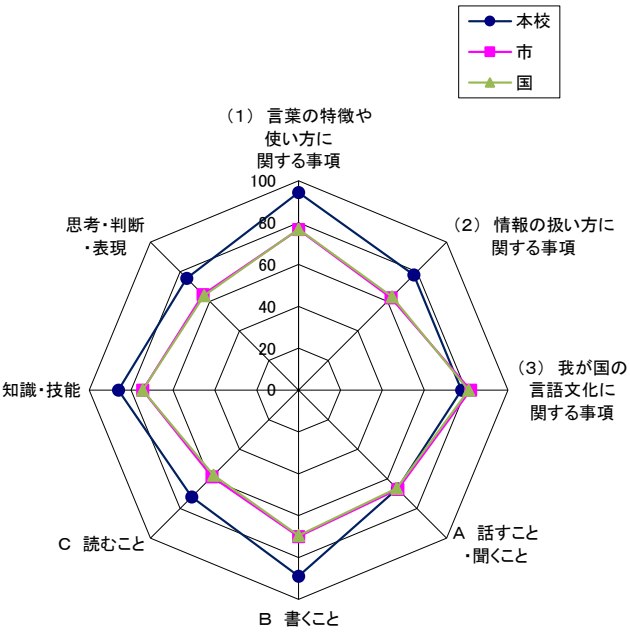
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	94.4	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	77.8	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.8	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	66.7	67.0	66.3
	B 書くこと	88.9	70.0	69.5
	C 読むこと	72.2	58.6	57.5
観点	知識・技能	86.1	74.5	74.5
	思考・判断・表現	75.6	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

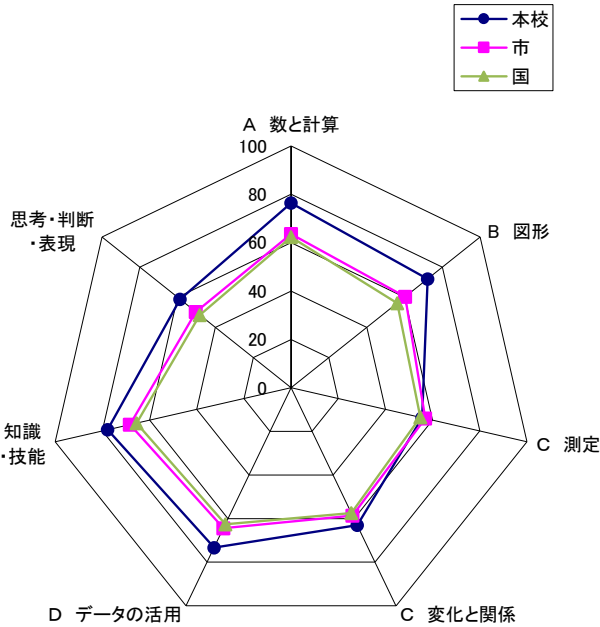
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は94.4%で、県平均と比べて18.5ポイント高い。 ○漢字を文の中で正しく使うことができる。	・文章を書くときに新出漢字や既習漢字を使うよう、指導を継続する。 ・授業で振り返りを書く場面、家庭学習で作文を書く場面などでも、漢字を使うことを意識させる。 ・定期的に漢字の小テストを実施することで、定着度を把握し、個に応じた指導をしていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は77.8%で、県平均と比べて15.8ポイント高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。	・単に情報を収集するだけでなく、それらの関わりをを考えて分類したり、説明したりする活動を取り入れ、よりよい情報の利用の仕方を身に付けさせていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は77.8%で、県平均と比べて3ポイント低い。 ●言語の変化についての理解が低かった。	・読書活動を通して、多様な言語や文化に触れる機会を設ける。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は66.7%で、県平均と比べて1.8ポイント高い。 ○話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる問題では、正答率が100%であった。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、正答率が77.8%で、県平均と比べて6.2ポイント高い。 ●目的や意図に応じて、集めた材料进行分类したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題では、正答率が22.2%で、県平均と比べて29.9ポイント低い。	・話合いの学習活動を行う際には、お互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点を意識するよう指導する。 ・情報を集める際や、整理する過程で、情報の取捨選択と重点化の視点を持たせる指導を行う。
B 書くこと	○平均正答率は88.9%で、県平均と比べて19.3ポイント高い。 ○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、正答率が100%であった。 ○目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしたり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができる。	・資料を基に、自分の考えを明確にし、読み手に伝わるように工夫して書き表す活動を取り入れる。
C 読むこと	○平均正答率は、72.2%で、県平均と比べて14.7ポイント高い。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題では、正答率が77.8%で、県平均と比べて38.9ポイント高い。 ●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題では、正答率が33.3%で、県平均と比べて16.7ポイント低い。	・学校図書館を計画的に活用し、各教科で読む力を育み、言語能力及び情報活用能力の向上を図る授業づくりの実践に取り組む。

宇都宮市立国本西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	76.4	63.6	62.3
	B 図形	72.2	60.4	56.2
	C 測定	55.6	56.9	54.8
	C 変化と関係	63.0	58.6	57.5
	D データの活用	73.3	64.4	62.6
観点	知識・技能	77.8	68.3	65.5
	思考・判断・表現	58.7	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

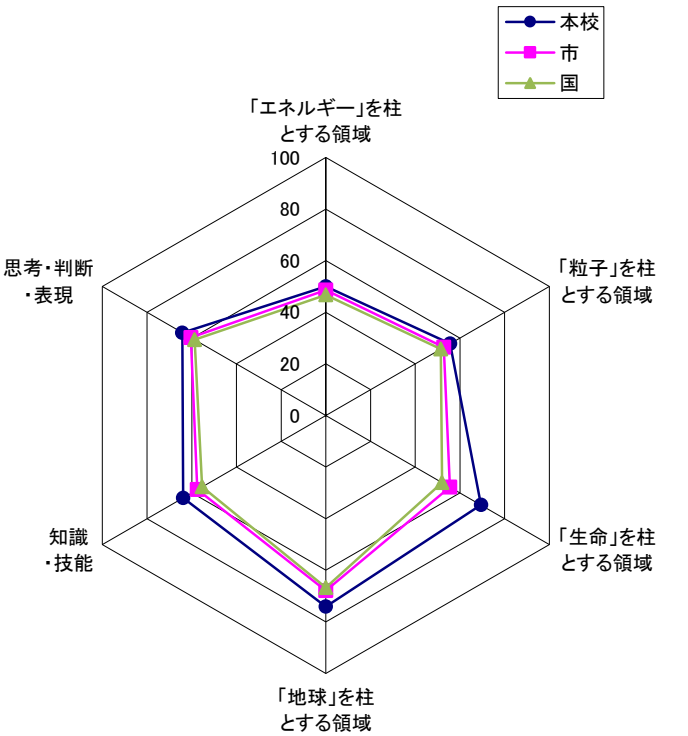
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は76.4%で、県平均と比べて14.4ポイント高い。 ○小数の加法について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く問題では、正答率が100%であった。 ●分数のたし算について、共通する単位分数を見だし、それが幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が22.2%で、県平均と比べて14ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・計算の仕方を式や言葉で説明する問題を、授業の中に取り入れ、児童同士で考えを共有したり、自分の考えを発表する場面を設けたりすることで、分かりやすく説明することができるよう指導する。
B 図形	○平均正答率は72.2%で、県平均と比べて15ポイント高い。特に、五角形を分割してそれぞれの図形の面積を求める問題では、正答率が77.8%で、県平均と比べて39.6ポイント高い。 ●辺の長さの異なる2つの図が表す角の大きさを比較する問題では、正答率が77.8%で、県平均と比べて14ポイント低い。	・方眼のマス目を基に、角の大きさについて考察する場を設定する。
C 測定	●平均正答率は55.6%で、県平均と比べて1.2ポイント低い。 ○伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題では、正答率が55.6%で、県平均と比べて8.1ポイント高い。 ●はかりの目盛りを読む問題では、正答率が55.6%で、県平均と比べて5.7ポイント低い。	・はかりの学習で、水や砂、重りなど、様々なものを使い、実際に測る活動を取り入れ、目盛りを読み取るよう指導する。また、50グラム単位や100グラム単位など、様々な1目盛りの問題を繰り返し演習するよう指導する。
C 変化と関係	○平均正答率は63.0%で、県平均と比べて7.1ポイント高い。特に、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見だすことができるかどうかを見る問題では、正答率が100%であった。 ●10%増量後の値が増量前の何倍かを選ぶ問題では、正答率が33.3%で、県平均と比べて4.9ポイント低い。	・増量・減量で基準を1とし、変化分を加減して何倍になるかを、線分図や具体例で指導する。その理由も互いに共有し相互理解できるように指導する。
D データの活用	○平均正答率は73.3%で、県平均と比べて11.3ポイント高い。特に、簡単な二次元表から条件にあった項目を選ぶ問題では、正答率が88.9%で、県平均と比べて17.2ポイント高い。 ●県の平均正答率を上回ったものの、目的に応じて、適切なグラフから、出荷量の変化を読み取り、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率が33.3%と低く目的に応じたグラフ活用と記述力に課題が見られた。	・複数のグラフから目的に応じた適切なものを選択し、データの特徴と必要な情報を読み取り、その理由を言葉や数で記述する問題を授業に取り入れ、記述力の向上を図る。

宇都宮市立国本西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	50.0	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	55.6	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	69.4	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	74.1	67.9	66.7
観点	知識・技能	63.9	57.5	55.3
	思考・判断・表現	64.2	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は50.0%で、県平均と比べて2.1ポイント高い。 ○乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題の正答率は県平均と比べて8.8ポイント高い。 ●電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題の正答率は県平均と比べて9.6ポイント低い。	・思考力・判断力・表現力を高めるために、学習の中で科学的な視点を提示し、それをもとに実験・観察結果をまとめたり、考察したりすることを積極的に取り入れる。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は55.6%で、県平均と比べて3.4ポイント高い。 ○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題の正答率は県平均と比べて7.4ポイント高い。 ●「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題の正答率は県平均と比べて9.9ポイント低い。	・今後も、自然の不思議さを実感し、深い学びにつながるよう、実際の実験や観察活動を充実させていく。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は69.4%で、県平均と比べて15.1ポイント高い。 ○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題の正答率は県平均と比べて30.0ポイント高い。 ○発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題の正答率は県平均と比べて27.9ポイント高い。	・今後も、実際の観察道具や実験道具を用いた活動を通して、子どもたちの観察や器具の操作といった技能を高めていく。 ・授業の中で問題解決の流れを意識し、予想に基づいて結果がどうなるかを話し合わせる時間を確保していき、子どもたちが科学的な思考力を養い、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は74.1%で、県平均と比べて6.7ポイント高い。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる問題の正答率は県平均と比べて13.8ポイント高い。 ●「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題の正答率は県平均と比べて9.9ポイント低い。	・授業の中で問題解決の流れを意識し、予想に基づいて結果がどうなるかを話し合わせる時間を確保する。また、実験結果から考察し表現する活動をこれからも大切にしていける。

宇都宮市立国本西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」という設問では、肯定的回答が県平均より上回っている。自分自身について肯定的に捉えられていることは、児童の自己肯定感の高さと関連があると推測される。今後も、教師が認め励ます教育の充実を継続するとともに、児童同士が互いに認め合う場を設定できるように、教育活動の工夫を行っていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」という設問では、肯定的回答の割合が100%であり、児童は、安心して学校に通うことができている。また、友達と助け合って生活していこうという意識が高いことがうかがえる。

○「国語の勉強は好きですか」「算数の勉強は好きですか」という設問では、肯定的回答の割合が100%ではないが、「国語の勉強は大切だと思いますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」という設問では、肯定的回答が100%となっていることから、苦手意識がありながらも自分の将来にとって大切だと考え、学習に取り組んでいる様子がうかがえる。苦手意識が少なくなり、児童が興味をもてるような授業を展開していきたい。

●テレビゲームや動画視聴の時間に関する設問では、児童が平日にも長時間使用していることが分かる。スマートフォン、パソコンなどの危険な側面をきちんと理解させた上で、家庭との連携を図り、使用上のルールの話合いやフィルタリング設定を説明していく。

●5年生までの学習の中でパソコン・タブレットなどのICT機器を活用することについて「自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」という設問では、肯定的回答が県平均を下回っている。今後、より一層の効果的なICT機器の活用を図るとともに、意見を交換する場面においても積極的に活用していきたい。

宇都宮市立国本西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・思考する活動の充実	・「取り組みたい」「考えたい」と思えるような場を設ける。	・「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の設問の肯定的回答割合は高い。
・自分の考えを表現する活動の充実	・互いに考えを出し合い、集団での試行錯誤を通して、自分の考えを広げ、深めることができる集団の学び合いの場を設ける。	・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問の肯定的回答割合は100%である。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の設問の肯定的回答割合も100%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の肯定的回答割合が高いものの、ばらつきがある。	・思考・表現力を高める多様なアウトプット活動の充実	・テーマ作文や絵日記、端末を使った写真日記や観察記録等を課し、自分の考えや意見を相手に分かりやすく表現する能力や態度を育成する。 ・あらすじを書いたり、要約したりする活動の段階的な指導の場を設ける。